

平成 21 年 6 月 22 日現在

研究種目：基盤研究C

研究期間：平成 2006～2008

課題番号：18520038

研究課題名（和文） 「洞神經」の基礎的研究

研究課題名（英文） The Fundamental Research of Dong-Shen Jing

研究代表者

山田 俊 (YAMADA Takashi)

熊本県立大学 文学部 教授

研究者番号：30240021

研究成果の概要：

道教経典を構成する「三洞」部の内の一つ、「洞神部」に分類される「洞神經(三皇經)」の復元・整理を行い、「洞神經」の実態を把握するとともに、六朝 一宋に於ける「洞神經」の変遷に就いて整理した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
18 年度	1300	0	1300
19 年度	700	210	910
20 年度	500	150	650
年度			
年度			
総計	2500	360	2860

研究分野：中国哲学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：道教、洞神經、三皇經、三洞四輔

1. 研究開始当初の背景

道教経典の基本的な分類概念である「三洞」の内、「洞眞」「洞玄」に就いては従来からも様々な研究がなされ、それぞれの部を構成する道教経典「上清經」「靈寶經」に就いては相当程度の解明がなされてきた。しかし、残る「洞神」部と、それを構成する経典群「洞神經」或いは「三皇經」に就いては、現存する文献上の制約も有り、初期の開拓的研究を除いては、ほとんど手が付けられていない状況であった。

2. 研究の目的

六朝期に成立し、唐、宋と継承されたとされる「洞神經」の成立経緯の具体的考察と、

六朝、唐、宋と受け入れられていた「洞神經」の実態を可能な限り具体的に解明することを目的とした。

3. 研究の方法

(1)六朝一宋の様々な文献に引用されている「洞神經(三皇經)」の佚文を可能な限り収集し、それらを内容の上から分類整理することで、「洞神經十四卷」とされる「洞神經」の全体像の復元に務めた。
(2)復元された「洞神經十四卷」の内容を全体的に考察することで、「洞神經」全体の性格、又、それらの受け入れ状況に分析を加えることで、その推移を考察した。

4. 研究成果

(1) 「三皇經」から「洞神經」への変遷の具体的状況は不明ではあるが、六朝から唐にかけてそれは生じ、「三皇經」と「洞神經」といの名称は互称であった時期があった。

(2) 「洞神經」が「十四卷」となったのは、唐代に入ってからのことと思われる。

(3) 「洞神經十四卷」の内容は、通常認識されている様な「召神祇の術」の様な技術的なものに終始される訳ではなく、遙かに豊かな内容を含むものであった。

(4) 「洞神經」の存在は宋代を下限とし、それ以降は徐々に衰退し、「十四卷」としてのまとまりを消失したと思われる。

(5) 「洞神經十四卷」としてのまとまりが消失した後には、再び「召神祇の術」の「洞神經」に関するイメージが独り歩き、それが、「淨明道」等へと影響したと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① 山田 俊

「六朝以來諸文献所引『洞神經』-①巻次明示『洞神經』-」, 『熊本県立大学文学部紀要』, 第14巻, pp. 15-45, 2008, 査読無し。

② 山田 俊

「晁迥の三教和諧思想與《道德經》-以《昭德新編》為主」, 『國際道德經論壇論文集 和諧世界 以道相通』, pp. 362-368, 2008年, 査読無し。

③ 山田 俊

「晁迥の三教思想について-『道德經』受容を中心に-」, 『九州中國學會報』, 四十六号, pp. 31-45, 2008年, 査読有り。

③ 山田 俊

「六朝以來諸文献所引『洞神經』-②巻次未詳『洞神經』-」, 『熊本県立大学文学部紀要』, 第15巻, pp. 43-64, 2009年, 査読無し。

④ 山田 俊

「複音節動詞後置成分『乙密』に就いて」, Language Issues, vol. 13, 14&15, pp. 43-58, 2009年, 査読有り。

[学会発表] (計1件)

① 山田 俊

「晁迥の三教和諧思想與《道德經》-以《昭德新編》為主-」, 國際道德經論壇, 2007, 4, 26, 香港理工大学。

[図書] (計0件)

無し

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

無し

○取得状況 (計0件)

無し

[その他]

特に無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 俊 (YAMADA Takashi)

熊本県立大学文学部日本語日本文学科・教授

研究者番号: 30240021

(2) 研究分担者

無し

(3) 連携研究者

無し